

『神々のWeb3.0』 / グーグルの次の「神」になるは誰か

米国のティム・オライリー氏（技術系出版社の社長）によって提唱されたWeb2.0という潮流が、社会一般に認識されてから、2年ほどがたつ。

当然、世間では、次にくるWeb3.0とは何か ということに興味湧いてくることでしょう。しかし、オライリー氏の答えは、次のようなものだった。

「Tim O'Reilly氏が考えるWeb 2.0のその先にあるもの、そしてWeb 3.0とは？」（2007年1月19日の「日経産業」から）

Web 2.0の考え方は、まだより様々な幅広い分野に拡大余地がある。ユーザー入力データのみならず、様々な端末やセンサー機器などから収集されるデータも連携活用されることで、新たな集合知の創造につながるだろう。

これまで以上に、Web上のデータが重要な役割を果たすようになる。向こう4、5年は、Web 2.0はより多くのビジネス領域に拡大していくだろう。

Web 3.0は、まだ当面は想定していない。Web 3.0は来年とか、1年、2年で来る話ではないよ。もっと独創的なイノベーションや、革新的な進化の話なのだから。もし、Web 3.0が来たなんて話をする人がいたとしたら、信じない方がいいね（笑）。

この記事のインタビューをまとめたのが、ジャーナリストの小林 雅一氏（KDDI総研・リサーチフェロー）である。その小林氏が、『神々のWeb3.0』（日米総力取材 / ティム・オライリーと読み解く「仮想社会」）という本を書いた。

Web 2.0の申し子である「グーグル、ユーチューブ、SNSの先に何かがあるのか」 キャッチコピーにつられるまでもまく、さっそくアマゾンで購入。

以下は、著者からの内容紹介〔「ウェブ3.0」時代を押さえるITサービスとは何か？〕である。

ウェブ1.0は、放送局のように、大量の情報が一方的に流される形を指す。そして、ウェブ2.0では、インターネットに接続した多数のユーザーが情報やコンテンツを持ち寄り、ネットワークを介して価値が創造されていく。これが、いわゆる集合知である。

では、ウェブ3.0とはいったいどのようなものなのだろうか？

答えは「人間関係の解析」と「あなただけのカスタマイズ世界」だ。今後、インターネットで行われるサービスは、すべてがこの方向に向かうだろう。実際、アメリカではその萌芽がいくつも出つつある。

そこで、近い将来、市場を制覇する可能性がある20以上ものオンライン・サービスを実際に取材し、開発者たちが何を考えているのかを明らかにした。彼らの誰かが、グーグルの次の「神」になるはずである。

本書は、ウェブ2.0という言葉を発明したティム・オライリー氏とともに、次世代ウェブの姿を考えていく。もしかしたら、あなたこそ次世代の神になれるかもしれない。

「今号の巻頭言は『神々のWeb3.0』にしようかな」とつぶやくと、妻から「本を読み終わってからのしたら」という声が聞こえてきた。そう、まだ本書は読み終わっていないのですが、市場を制覇する可能性がある20以上ものオンライン・サービスを日米で実際に取材した小林さんには、近い将来のWeb 3.0の申し子・神々たちがどこかに見えているのでしょうか。